

番号	氏名	抱負
26	竹井 泰孝	<p>私はこれまで中部支部理事、研究会代表世話人として、東海、北陸ブロックで研究会やセミナーの企画運営を行ってきました。しかし平成23年4月から放射線防護分科会委員を拝命してから活動範囲や活動内容は一転し、全国規模で本部事業の一翼を担うセミナー等の計画立案を行い、確実に実行するという高いレベルの仕事を求められるようになりました。</p> <p>防護部会委員として福島原発事故対応に当たっている際、我が子の医療被ばくをととても心配する多くの親御さんの存在を知り、それらの経験をもとに設立された学術調査研究班で小児CTの全国調査を行いました。その研究成果が我が国の小児CTの診断参考レベルとして全面的に採用され、JSRTの一員として大きな役割を果たすことができました。私はこれらの経験を活かし、日本放射線技術学会の国際化実現に向けて微力ではありますが本部理事として努力して参ります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。</p>
27	坂本 肇	<p>日本放射線技術学会が今後さらに魅力ある学会へと進歩、発展していくためには、多くの会員が学術大会の参加と発表を望み、セミナーや研修会への参加、さらには学会誌への論文投稿を積極的に行いたいと考えるような会員参加型の運営が不可欠と考えます。また、放射線技術学の研究は、直接的あるいは間接的に医療の進歩・発展に寄与でき、社会に還元できることが重要な要素と考えます。そこで、学会にて議論される研究内容を臨床現場で活かせるような成果を上げることが私の目標と考えています。このため、教育や基礎的な技術の普及などにも尽力を注ぎ、会員ファーストの学術団体としての役割を心掛け、更に開かれた参加型の学会となるよう貢献したいと存じます。理事としてその一助を担えればと考えております。</p>
28	柳田 智	<p>これまで、関東支部理事、大会開催委員、学術大会運営システム構築班員として会務に協力してまいりました。また、総会学術大会、秋季学術大会でシンポジストや入門講座講師として学術面でも学会に参加協力してまいりました。役員を務めさせていただき、学会本部、専門部会、地方支部の結びつきの重要性を常に意識しております。今後も学会本部、専門部会と協力し、更に地方での多くの事業を行っていかなくてはならないと考えています。現在、技術学会は国際化に向けて英語発表や英語論文を推進しておりますが、さらに会員の研究を後押しができる環境作りが重要と考えます。また、毎年輩出されてくる新人診療放射線技師が、魅力ある技術学会に入会するような組織作りも重要と考えます。これまでの経験を生かし、技術学会の発展、専門部会地方支部の活性化、会員の放射線技術の向上のために理事として寄与してゆきたい所存であります。</p>
29	杉森 博行	<p>このたび、平成29・30年度日本放射線技術学会の次期役員選挙に立候補しました杉森博行と申します。一会員として、技術発展を目指し日々研究に努めるべく研究発表および論文投稿を進めている所存ですが、平成25年度から北海道支部での副支部長の経験、平成26年の第42回秋季学術大会の副実行委員長経験を重ね組織を運営することを通し会員と共に地域支部運営に取り組んで参りました。平成27年度から本部プログラム委員会での倫理審査担当委員を務めさせていただいたことは非常に貴重な経験となり、本機会を得て更に会員のための事業展開の推進並びに日本放射線技術学会の更なる発展に関わりたく、このたび役員に立候補させていただきました。若輩者ではありますが、これらの日本放射線技術学会の取り組みや活動などに対して、今までの経験を生かし支えることができるように努める所存です。皆さまのご支援とご協力をお願い申し上げます。</p>
30	南部 秀和	<p>本学会の会務は、近畿支部副支部長、プログラム委員として地方と本部事業に携わって参りました。支部事業では、諸委員会の活性化や連携に焦点をあて、充実した企画を通じて情報発信に尽くしております。プログラム委員としては、放射線治療分野の一般研究発表の審査より最先端の研究をサポートして参りました。この間、学会は倫理、国際化、関連諸認定対応と内外のめまぐるしい情勢を一会員としても体感してきました。高度化する放射線技術学は、それを取り巻くさまざまな専門分野の学者、医療従事者、学生、ベンダー、一般の方への公益性が方向を見誤らないようバランスのよいものでなければならぬと常日頃考えています。これまでの経験を踏まえバランスを見極めた上で、学会が発展するよう尽くす所存です。皆様の一票を何卒宜しくお願い致します。</p>